

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	渡邊幸佑
2. 審査委員	主査：（上越教育大学 教授） 渡部 洋一郎 副主査：（兵庫教育大学 教授） 菅井 三実 委員：（岐阜大学 教授） 安 直哉 委員：（上越教育大学 教授） 押木 秀樹 委員：（岐阜大学 教授） 小林 一貴
3. 論文題目 説明的文章のキーセンテンスを把握するための読解方法の開発・評価 —令和3年度版中学校国語教科書の説明的文章48編を対象に—	
4. 審査結果の要旨 教科教育実践学専攻言語系教育連合講座 渡邊幸佑 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和8年2月7日（土）10時00分～11時20分 場所：Zoomによるオンライン開催 1. 学位論文の構成と概要 中学校の国語科では、説明的な文章を読み、要点（キーセンテンス）を把握する学習が行われている。先行研究では、キーセンテンス（要点を文単位で把握したもの）を見つけるための読解方法が様々提案されてきた。しかし、先行研究の読解方法を用いることでどの程度正確にキーセンテンスを把握できるかに関し、定量的な評価が行われていないため、どの読解方法がどの程度有効か明らかでなかった。そこで、博士論文では、先行研究の読解方法の有効性を定量的に評価し、有効性の高い読解方法を明らかにした。 「第1章 序論」では、先行研究をレビューし、これまで提案されてきたキーセンテンスの見つけ方を網羅した。その上で、先行研究のキーセンテンスの見つけ方を用いることでどの程度正確にキーセンテンスを特定できるかに関し、定量的な評価は行われていないという課題を指摘した。 「第2章 正解キーセンテンスのデータセットの作成」では、キーセンテンスを把握するための読解方法の有効性を定量評価するためのデータセットを作成した。データセットは、説明的な文章48編を対象に研究協力者3名と「本来要点として拾うべき文」（「正解キーセンテンス」）を設定したものである。「ある読解方法により抽出された文」と「正解キーセンテンス」との一致度が高いほど、読解方法の有効性が高いと評価する。「ある読解方法により抽出された文」と「正解キーセンテンス」との一致度が低いほど、読解方法の有効性が低いと評価する。	

「第3章 接続語句に着目した読解方法の有効性評価」では、「しかし」、「このように」などの接続語句を含む文を抽出するという読解方法の有効性を評価した。「しかし」、「このように」などの接続語句を含む文は、正解キーセンテンスとの一致度が低いという結果が得られた。そのため、「しかし」、「このように」などの接続語句を含む文を抽出するという読解方法の有効性は低く、推奨し難いと考えられる。

「第4章 説明的文章のキーセンテンスを把握する読解方法の有効性評価」では、文の意味機能に着目した読解方法の有効性を評価した。1つの文章中から最も重要な1文を拾いたい場合、「まとめ文」（内容をまとめて述べている文）を抽出するという読解方法の有効性が高いことが確認された。1つの文章を10%～50%に縮約したい場合、「まとめ文」、「答えの文」（問題提起に対する答えを示す文）、「根拠あり文」（根拠が示されている文）、「被例示文」（例が示されている文）を抽出するという読解方法の有効性が高いことが確認された。

「第5章 キーセンテンスの重要度を捉える読解方法の理論的検討」では、2つの文を比べ、どちらの文が重要であるか判断する方法を検討した。①内容をまとめる文は、まとめられる文より重要、②根拠又は例が示されている文は、根拠又は例を示している文より重要、③他の考えを否定した上で筆者が肯定する考えを示す文は、筆者に否定される考えを示す文より重要、という判断方法を示した。

「第6章 キーセンテンスの重要度を捉える読解方法の有効性評価」では、第5章で提案した判断方法を具体的な読解方法に落とし込み、その読解方法の有効性を評価した。その結果、提案した読解方法の有効性の高さが確認された。提案した読解方法は、文の重要度を捉えることができるため、特に重要な少数の文を厳選したい場合は、重要度の高い文を中心に抽出することができ、文章中から要点となりうる文を多めに抽出したい場合は、重要度の低い文まで含め抽出することができるという汎用性の高いものである。

「第7章 結論」では、博士論文のまとめと今後の課題を示した。

2. 審査経過

申請者より博士論文の概要に関する口頭発表があり、それを受けて各審査委員と申請者による論文内容に関する質疑応答がなされた。

独創性は、説明的な文章のキーセンテンスを見つけるための読解方法の有効性を定量的に評価し、有効性の高い読解方法を明らかにした点に認められる。従来の国語科教育学では、読解方法の有効性を定量的に評価する方法がなく、読解方法の有効性は定量的に明らかにされてこなかった。一方、申請者は、人工知能(AI)研究における自動要約の質の評価手法に着眼し、自動要約の評価手法を国語科教育学に応用し、人間の用いる読解方法の有効性を定量的に評価した。分野横断的な着眼により、従来の国語科教育学のボトルネックを解消した点に独創性が認められる。

発展性は、対象文章(数・ジャンル)を拡大しうる点に認められる。博士論文は中学校の国語教科書における説明的な文章を対象としたものであるが、小学校の国語教科書の文章や高等学校の国語教科書の文章を対象とした場合には読解方法の有効性が異なる可能性がある。また、説明的な文章は、評論、論説、説明といったジャンルをひとくくりにしたものであるが、ジャンルごとに有効性を評価した場合に読解方法の有効性が異なる可能性がある。さらには、教科を超えて、英語教育における読解方法の有効性評価に発展する可能性がある。

学校教育の実践への貢献は、推奨する読解方法と推奨しない読解方法を示した点にある。従来の教育実践において、「しかし」、「このように」などの接続語句を含む文を抽出するという読解方法が用いられてきたが、本博士論文はこのような方法の有効性が限定的であることを示し、むしろ、文の意味機能に着目して読解すべきことを定量的に示した。このように用いるべき読解方法とそうでない読解方法を示した点は、学校教育の実践に重要な示唆を与えるものである。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は渡邊幸佑の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。